

Okahata

NEWS LETTER

vol.32

2023

07

フィジカルに。 形に。

2

INDEX

- ▶ たけうち、上海駐在するってよ
- ▶ 米本が語る、The Okahata Shoes 2
- ▶ 坂出の、CITE JAPAN2023出展記
- ▶ 社長から：
カバー写真(ステルス戦闘機)の説明を・笑

フィジカルに。上海駐在編



ゴルフ部(とサポート部門)部長、安尾からのご報告。
フィジカルに。海外に。弊社、竹内が8月から上海駐在します！

■ 竹内といえば、このインタビュー記事： [Click](#)

「いまの自分にできることを全力で。その先に、やりたいことが見えてくる。」

最近は、フットサルのみならず、ゴルフも(リクルートCUP2023夏季団体戦でも大活躍!)。ゴルフでOB叩いても、仕事はフェアウェイキープで！ 上海でもゴルフを通じて、友達たくさん作ってください。

まずは、坂出から激励メッセージ：

言葉やビジネス慣習の違いに苦労する事もあるとは思いますが、日本のお客さまの考えを熟知している竹内さんだからこそ出来る事もたくさんあります。
まずは日本向けソーシングを力強く引っ張ってください。期待しています！

社長からも：

駐在マジでうらやましい(笑)。前任の張巍とは違う、自分らしいやり方で、具体と抽象の往復と、組織を動かす経験(動かなくて焦る経験・泣)をたくさん積んで下さい。海外個会社という“出島”組織だからこそ、できるチャレンジを！

■ 駐在員のすすめ： [Click](#)

(“具体と抽象”の両方を任される役得ポジションだけ)

■ 前任の上海駐在員、張 巍インタビュー [Click](#)

「子どもがそのままリーダーになったような人」

フィジカルに。形に。

The Okahata Shoes

2^編



開発中のThe Okahata Shoes 2

米本です。

フィジカルに。形に。The Okahata Shoes のこと、熱く語らせてください!

■ The Okahata Shoes 1: [👉Click](#)

前節 わかりにくい靴のことを、わかりやすく

靴製品というのは、その身近な存在の割に、製品構造や生産プロセス、モノの流れ、サプライチェーンのことは、実はあまり知られていません。私たちが事業やくつナビを通じてやりたいのは、**その複雑さ(ブラック・スポット)に光を当てること／知ってもらふこと**。靴のこと、材料やプロセスのことを知ってもらふことで、靴以外の専門家(例えば化学品素材メーカー)の新しいアイデアや叡智を集めたい。

今月のフットウェア

2023.07

靴材料やプロセスのことを知ってもらふ、
今月のコンテンツご紹介



■ ヒコみづの×岡畑興産の第2弾
テーマはズバリ「サッカースパイク」 [▶LINK](#)

■ 自由なものづくりコミュニティ
”AKXY LAB”に参加しています! [▶LINK](#)



■ “AKXY LAB”サイト:
旭化成さまの仕掛けるスカンクワークス?
AKXY Labに弊社鈴木が登場! [▶LINK](#)



■ くつナビ的シューズ開発 Vol.1
＝ 開発を始める前に ＝ [▶LINK](#)

■ くつナビ的シューズ開発 Vol.2
＝ さあ開発をはじめよう ＝ [▶LINK](#)

1 The Okahata Shoes 1、 よかったでしょ(笑)

弊社フットウェア事業の根幹は、“**Material Excellence**”を通じた、**靴ブランドさまのこだわりを形にするお手伝い**、と定義しています。靴専門家目線なユニーク材料提案からの**イノベーションへの誘い**(いざない)、とでも申しましょうか。

とかっこええことを書きましたが、私たちの実力は、Material Excellenceを“履き”違え、蘊蓄を引き散らかし、専門用語を並べ立てがちで、自分目線がまだまだ強いと猛省中。

Material Excellenceの正しい“履き方”(=営業の基本)は、**相手目線でわかりやすく**。そうすることで、新しいメーカーさまから、靴用途でこの素材売れないかという相談の**呼び水**、お客様からもっとこうしたい、といったご要望の**呼び水**となること。

2 The Okahata Shoes (以下、TOS)を 呼び水に

靴材料を靴製品／形にして、“呼び水”となる土台をつくっちゃえ、という着想からでした。第一弾はとにかく手元にある材料を盛り込んで、まずは形に、3Dにしてみただけなのですが、やってみたら、想像以上に手応えあり。

切れっ端の材料スワッチ、製品サンプルシートを片手にウンチク披露。物性データをお見せしてどれだけ強度があるかを説明する、**自分→お客さまのOne Wayプレゼン**よりも、**TOSをドーンとデスクに置く方が、会話が盛り上がったのは、TOSが相手目線でわかりやすかったということ**。「TOSそのままロゴ名を自社ブランドに変えて販売したい」というお客さままでおられ、少々こっぴどくしかったのですが、具体化された形(TOS)を触りながら、生まれたアイデアは、今までになかったものでした。

実際、靴の開発現場は、開発過程の要所でフィジカルサンプルを必ず確認する現物主義でアナログな世界。知り合いの靴デザイナー達は口を揃えて、「素材感と意匠性、見て、触って、足いれて、は2Dもしくはデジタルでは代替できない」と語ります。それだけ**現物からフィジカルに得られる感性**を大切にしているということなのだと思います。

3 The Okahata Shoes 2 : 素材の物語が詰まった フィジカルサンプル

材料提案でも、(材料が靴の姿になった)現物からフィジカルに得られる感性に訴えたい!

ということで、**The Okahata Shoes 2** を鋭意製作中!とりあえず全部盛りだった第一弾。第二弾は、靴のデザインも大幅変更し、**使用素材がより活かされ、それぞれの素材の物語が詰まったフィジカルサンプル**にするつもりです。ブランドさまからすれば靴製品としての完成度が低いのは承知の上で、こだわるのは、呼水度!

“Material Excellence”目線でそれぞれの素材の強みを形にし、こんなこともできるかも、という**イノベーションへの誘い(いざない)**、**アイデアの呼水**となる**The Okahata Shoes 2**。

靴を、靴材料をわかりやすく。TOS2。ご期待ください。



フィジカルに。

CITE JAPAN 2023 出展記

坂出です。

5/17～19、**CITE JAPAN2023**  に
出展してきました！

2021年コロナ期開催とは打って変わって、フィジカル
に大賑わい。約6万6千人が来場され、韓国ほかアジア
からの来場者も多く、弊社ブースのOKK(岡畑Korea)
社員も大忙し。名刺交換数は過去4回出展で最高!ONL
読者の方々にも大勢、足を運んで頂き、本当にありがと
うございました。



今年は若手2名が初参加し、↑こんな感じで社長監修
コート(The Okahata Coat)を着用して統一感を。

社長から：

The Okahata Coat内側には、取引先さま
に協力いただき(感謝🙏)、水系人工皮革等を使
い、ONL表紙(AbbeyRoad)が水系インク
ジェット印刷されているギミックも。

弊社展示品でもとりわけ人気だったのは、ヒアルロン酸（**パウダーじゃなくフィルム**）、スクワラン（**サメ由来じゃなく大豆由来**）。既に10社以上がサンプルを触ってくれています。面白かったのは、21年CITE JAPANで愛敬化学AOS（アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム）を知ったお客さまが、23年CITE JAPANの自社ブースで、愛敬AOSを組み込んだ処方を紹介してくれていました。予期せぬ、わらしべ長者的展開！

■ 愛敬化学のAOS@どこ展

展示会後は、恒例のポジティブ反省会。次は、専門性強化や集客のためにも、出展者技術発表会にも出たいという声が現場から聞かれ、頼もしく感じています。そのためにも、今の商材をしっかり売り、さらなる面白商材を集めることに注力いたします。

どこ展もバージョンアップを予定。フィジカルも、バーチャルも、岡畑興産の化学品事業をよろしく願います。

出島組織、 トップガンマーヴェリックと スキャンワークス

岡畑典裕

6月アメリカ出張記、バイアスマミレ(笑)の日米比較組織論2
～政治観ではなく、産業史的にご笑覧下さい～



話は、数ヶ月前にさかのぼります。

“日の丸・なんちゃら会社”が軒並み失敗している中、“**日の丸
コンテナ会社“ONE**”(川崎汽船+商船三井+日本郵船)だけは
快進撃。なんでだろうと(積読本棚から)手に取った本が、“**新し
いことをやり切れてない**”**自分の悩み**にストンと落ちたんです。

BOOKS

「日の丸コンテナ会社ONEはなぜ成功したのか？」

／幡野武彦、松田琢磨 著 日経BP

手が止まらない感はないですが、新しいことに踏み出せる組織／
仕組みづくりに興味ある人向けの良本。

最近面白くて手が止まらなかったのは↓

「半導体戦争」

／クリス・ミラー 著、千葉敏生 訳 ダイヤモンド社

TSMC、NVIDIA、リソグラフィー等々、紙面を賑わす言葉の背景
／文脈をちゃんと理解したい人にはオススメ。

曰く、**その秘訣は、出島組織にあり**。出島組織とは：

- 本体組織から何がしかの形ではみ出して、
- 新しい価値を生む組織

2

で、スカンクワークス🦊とは？

時を同じくして、**ロッキード社(現ロッキード・マーティン社)**の**“出島組織”**、**スカンクワークス**の存在を知ってしまったのです。スカンクワークスとは、国からの無茶振り＝**特命を受け、少数精鋭が集まり、超短納期で、本社では到底無理なイノベティブな飛行機を生み出してきた組織／仕組み／方法論**。例によって例の如く、関連書籍を読み漁ったのですが、半導体もコンピュータもない1950年代に生み出したイノベーションの数々に驚愕。もはや書籍や写真、Youtubeだけでは満足できず、スカンクワークスの作品現物を生で観たくなってしまったのです。**(フィジカルに。形に。)**やっぱ、現物が一番でしょ

>>スカンクワークスの代表作

- U-2偵察機
(1955年:米ソ冷戦史で教科書に載ってたような)
- Blackbird
(1964年:マッハ3は今でも最速。**トップガンマーヴェリック**冒頭の、マッハ10機体のモチーフかと、尾翼に🦊ロゴあり)
- Nighthawk
(1981年:F-117ステルス戦闘機。湾岸戦争で活躍)

現物がどこで展示されているのかググったらば、オハイオ州(さすがライト兄弟のお膝元)に。なんの奇跡かご縁か、訪問先から車で1時間。迷った挙句、訪問先の方にダメ元で、行けませんかーとお願いメールした結果が、ONL32カバー写真(F-117ステルス戦闘機、Nighthawk)。訪問先の皆さまには感謝の言葉しかありません🌞

3

そもそも、なんで、今、スカンクワークス＝出島組織なのか。

アメリカがイノベーションで何周も先行できる理由を、**試行錯誤や失敗を許容する文化／土壤にあり、**と書いたのは

ONL28:  Click

その試行錯誤と失敗を許容／後押しする**仕組み／方法論の原型**(のかけら)が、スカンクワークスにありました。

スカンクワークスのモットー、14 Rulesのエッセンスを自分なりに要約すると

- ▶ 決めるのは、ひとり。シンプルなレポートライン。
- ▶ “人の意見を聞き、自分の考えを修正できる能力で、その人間の賢さが分かる。”
- ▶ 少数精鋭、通常組織の約20%がよい。
- ▶ 石を投げて届く距離に集まる。
(サクッと相談でコミュニケーションコストを低く：
スカンクワークスはサーカステントで始まったし、ONEも
“本社400名をワンフロア”に拘った。)
- ▶ “単純に考え、実行。速やかに、黙って期限を守れ”
(60点でも前に進め。)
- ▶ できる限り、汎用品を使いこなす。
(既存技術の組み合わせでイノベーションは可能。
納期もあるし。)
- ▶ 墜落も成功。“Crashing is Success”
- ▶ リーダーは結果／貢献の大きさで評価される。
組織の大きさは関係ない。

さらにスゴイのは、スカンクワークスが立ち上がった**1943年**からこの精神でやっていたこと。**80年前からの試行錯誤や失敗を許容／後押しする方法論**(の萌芽)が、後々のシリコンバレーに繋がっていくのです。

▶▶ 沿革 ▶▶

1903年：ライト兄弟初飛行
1943年：スカンクワークス創設
1944年：F-80 初飛行
1946年：岡畑興産が誕生
1955年：U-2偵察機
1964年：SR-71 (Blackbird)
1975年：岡畑典裕が誕生(🙏)
1981年：F-117 (Nighthawk：ステルス戦闘機)

2022年:Space X年間打ち上げ数61回、全て成功。
2022年:日本は打ち上げ成功数ゼロ。
2023年6月:ショウヘイ・オオタニ月間MVP(15ホームラン)

4 新しいことをやり切る ／パイをデカくする方法論

ただのアメリカ礼賛ではないんです。「**(それでも)日本はいい国だよ**」で終わらず、**新しいことをやり切る人たち**から、謙虚に学びたい。

それは例えば、**表面上見えていること(WHAT)にただ飛びつかず、隠れた本質(WHY)を見ようとする**こと:

アナハイムスタジアムに散らかったゴミ(表面)よりも、ショウヘイ・オオタニはMLBのトップに君臨し、彼の\$給料💎を払えるMLBという集客装置の凄さ(本質)を。

アメリカは不便も多いけれど(表面)、**パイをデカくすることで解決／納得させちゃう力がある**んだぜってこと(本質)を。

スカンクワークスから**学べる本質**の一つは、**何がなんでも丁寧、は間違い**だということ。スカンクワークスでは、丁寧さより、60点でも／たとえ間違っても、前に進むスピード。丁寧で遅い報告書より、ズレ補正のためのサクッとメモ&コミュニケーション。支出と納期管理だけは、厳密丁寧に。

5 学び続ければ、 今まで見えなかったものが見えてくる

ビジネスも言語もよく似ていて、「**語彙**」が増えれば、拾える情報が一気に増える=**今まで見えなかったものが見えるようになる**んです。学ばないビジネスパーソンがいるとするなら、それは、辞書も持たずに外国語を読み続けるようなもの。今までの語彙力(やり方)に安住せず、学び続けるビジネスパーソンだけが、より難しく面白い文章(ビジネス)を解読できる。

学び続けていれば、**新しいことをやり切る、出島組織的方法論**
だって見えてくる。僭越ながら、弊社にも見えてきた人がちらほら。我田引水を承知で言うのならば、僕らは、**取引先さまの出島組織＝スカンクワークスになれる**、かもしれない。



例の 🍷 会社さまのリサイクル・サンダルほか、色々ありますが、いちばんホットなのは

ゴム製品の悪臭低減プロジェクト中間報告：

～マスキング香料の新用途、練り消しモデルとは～



ご興味あれば、気軽にお問い合わせください☺️。

ONLも32号、**コンテンツ・わらしべ長者**を目指し、今日もひたすら、経営を、後押しを！

くれぐれも、**コンテンツ・オオカミ少年**にならないように、気をつけます(涙)

アメリカからは、以上です。

〈主な参考文献〉

書籍：

「ステルス戦闘機—スカンク・ワークスの秘密」

／ベン・リッチ 著、増田興司 訳 講談社

「史上最高の航空機設計者 ケリー・ジョンソン 自らを語る」

／ケリー・ジョンソン、マギー・スミス 著 高田剛 訳 プレアデス出版

Podcasts: 「Acquired」「Inside Skunk Works」

その他:Wikipedia とYoutube

■ 編集後記

Age is just a number.

(社内報Gazette2023年6月号より転載)

今号はいろいろな体験談が寄せられました。何気ない日常生活の中にハッとすることってたくさんありますよね。その気づきを綴り続けると、ひょっとしたら人生が見えてくるかもしれません。

10年ほど前に『フランス人は10着しか服を持たない』という本が流行りました。当時、我が家のクローゼットを見て、使っていない服やバッグ、靴の多さにため息をついたものでした。父母が亡くなり、それなりの広さのある一軒家を持て余し売却を決意、小さな賃貸住宅に暮らし始めた頃から「断捨離」を始め、今では「ミニマリスト」として友人やご近所で有名になり、見学者が来たり、建築業者がインスタに載せる写真を撮りに来たりと、ちょっと面倒なことが起きています。

最近「断捨離術」も含め「〇〇歳になったら家事も手抜き」とか「80歳、シンプルな独り暮らしの〇〇」といった「手のかからない(かけない)暮らし」を特集している雑誌をよくみかけます。歳をとったら掃除も料理も手抜きでOK。ジャガイモだってレンチンして塩ふって食べるのが一番……。確かに、茹でたジャガイモに塩はシンプルで美味しいと思いつつ、ニンニク、ベーコン、玉ねぎ、じゃがいもをバターとオリーブオイルで炒めたジャーマンポテト風を作り、カロリー高めだけれど、やっぱりこれだ! と思っている私。浴室の水気は黴の温床とばかりにバスタブに上がり天井の雫を一滴もらさずふき取ってお掃除し、お風呂に入ったのに汗びっしょり、という私がいたりします。

本もできるだけ電子書籍にと思っていたのに、気づいたら紙版の本が増え、10数年間やめていたフレミッシュ織を再開、ついでに筆でお手紙書きたいよね、という友人と共に書道を始め、四季折々の和菓子を楽しみつつお茶の会も開催しています。思いのほか仕事量もボランティアも増え、親しい友の「何がミニマリストだ、何がシンプルライフだ。もう心配なんかしないぞ」というお叱りの言葉に首をすくめつつも、「年齢」で行動を区切る必要性があるのかな、と疑問に思うようになりました。

“Age is just a number”——イギリスの俳優が言った言葉のようですが、それには、「前衛であり続けること。今いる場所に満足することなく挑み続けること。常に新しいものへチャレンジすること」が根底にあります。100歳を過ぎてもなお第一線で創造し続けている染色家・柚木沙弥郎氏の「いつからはじめたっていいんだよ。僕だって物心ついたのは80歳になってからなんだから」に無理やり納得し、(本音はちょっときついけれど、)マイペース+αで歩み続けようと思っています。(kiki)

ニュースレター **バックナンバー**はこちら



Okahata
NEWS LETTER
—
BACK NUMBER

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行

2023年7月10日号

発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6

TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER
2023.7.10 / Issue 032

© 2023 オカハタとアイデアと